

Newspace

～生徒会新役員紹介号～

郡山東高校新聞速報版 号外

編集・発行 郡山東高等学校新聞部
発行人 松本 優衣
編集人 古川 奈々
〒963-8832 福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898

生徒会

7人信任投票で決まる

今日(21日)の生徒会選挙では、全ての候補で信任投票が行われた。昨年度と同じく放送による立候補説明会、あいさつ運動なしの、十分に選挙活動ができていない中で生徒会選挙となったが、候補者の熱い演説により、7人の新役員が決まった。また、郡山東高校新聞部は、今の東高の様子を伝えるため、図書館の先生や女子用スラックスについて取材を行った。

今日(21日)に令和3年度生徒会役員選挙が行われ、生徒会長に大竹統也(2年)が選ばれた。新役員7人が選ばれた。総投票数は734票だった。選挙は2日に告示され、今年度は選任投票ではなく信任投票が行われた。信任投票の結果、副会長に佐藤叶夢(2年)、朝倉空良(1年)、書記に常恒美里(2年)、

会長

大竹 統也 2-3

副会長

佐藤 叶夢 2-7

朝倉 空良 1-6

書記

磯 友晴 2-6

会計

常恒 美里 2-5

佐藤 空翔 1-4

磯 友晴 2-6

橋本 華奈 1-1

新聞部員募集

新しいことを始めたい
写真に興味がある
青春したい人
初心者も体育会系も!
男女問わず大歓迎

ひと

「東生の模範となるように」 生徒会長 大竹 統也さん

生徒会長に立候補した理由は「学校の代表となり、より多くの意見を知らりたい」と考えたからだ。中学校ではパソコン部、所属しながら生徒会長としての責任を踏まえ、いろいろな人の意見を知りたいと、写真部に入部して、写真部として活動し、生徒会書記として活動し、一方で生徒会に入った。



境を作るための手段として目安箱を積極的に利用していきたくを公約として掲げた。今までは目安箱の利用が少なかった。そのことを踏まえ、いろいろな人の意見を知りたいと、写真部に入部して、写真部として活動し、生徒会書記として活動し、一方で生徒会に入った。

新制服導入に向けて

今月22日、24日の朝生徒昇降口に新制服の見本が並び、生徒の注目を集めた。中でも、新たに作製された女子用スラックスの前には、足を止める女子生徒が見られた。女子用スラックスの導入の検討は制服業者企業との打ち合わせを経て実現した。24日にはジェンダーレスの観点から、制服のデザインに関するアンケートが行われ、その一環で昇降口に見本として、男子の現行のデザイン、女子のスカーツ、スラックスそれぞれのデザインが並んだ。アンケートの結果を参考にデザインが決まる。女子用スラックスの着用は、来年4月を予定とし、1年を通して、制服を選択することが可能になる。(白銀)



図書館の利用を身近に

郡山東高校の図書館は一日に約25人の生徒が利用している。月に一度新しい本を仕入れており、特に小説の本が多い。特設として小論文対策コーナーや、新型コロナウイルスに関する本が置かれているスペースもある。小論文対策コーナーにはさまざまな分野に分けて、必須の知識が得られる本が並ぶ。ここは3年生に向けての本を多くそろえている。しかし、1・2年生の総合的な探求の時間のテーマに役に立てることが出来る本もたくさんある。本を読むことには多くのメリットがある。専門的な知識を得ることができ、自分の好きなテイミングで好きなジャンルの本を読むことで自分の世界が広がる。司書の吉川久美子さんは「これらの本を通して、自分の視野を広げた新しい世界を見てほしい。そしていろいろな知識を身に付けてほしい」と話した。



→おすすめの本を生徒に紹介する吉川先生

→新役員に任命された生徒会役員。上段左から常恒さん、佐藤さん、磯さん、橋本さん、下段左から佐藤さん、大竹さん、朝倉さん



吉川先生におすすめの本を聞いた。1冊目は、乙女の本棚シリーズの「山月記」だ。この本は美しいイラストと共に

東生に読んでほしい本について聞くと吉川先生は「文学だけでなく幅広いジャンルの本を読んでほしい」と生徒に向けて話した。(かぐや)

昇降口に並ぶ、女子用スラックスのデザイン案

東生手記

中学入学時、どの委員会に所属するか迷っていた。当時図書委員会に所属していた兄の「図書委員会は仕事が少ないから楽だ」という言葉を聞いて、不純な動機から図書委員会に所属することを決めた。図書委員会には3つの役職があった。委員長は会議の際に委員の前に立ち声をを行い、委員へのアドバースを行う。副委員長は委員長の手助けや委員長が不在の際の代理の司会を務める。書記は会議の内容を記録する。学年ごとに変わる役職も決まっていた。1年生からは書記を1人選出しなければならなかった。しかし、率先して書記に立候補する生徒はおらず、私は仕方なく手を挙げた。2年生となった時、私は別の委員会に所属しようか迷っていた。兄は「楽だ」と言っていたが、図書委員は想像以上に仕事が多かった。しかし、仕事をこなしていくうちにだんだん「やりがい」を感じている自分にも気づいていた。悩んだ末、図書委員会に所属することに決め、自ら副委員長となった。2年生の後期、司書の先生に呼び出された。呼び出される理由に心当たりがなかった私は、おびえながら図書室に向かった。先生は「次の委員長を任せてもいいですか」と言った。私は人前に立つのが苦手であり、不安だったが「委員長をやってみてほしい」という気持ちで勝り、先生に「はい」と言った。3年生では委員長を務め、後期に引き継ぎ、3年間の任務を終えた。不思議なもので、積極的な理由から取り組んだわけではなかった私は3役を務めることになり、図書委員会の仕事に誇りと責任、やりがいを感ずることができた。動機やきっかけは大事だが、それよりもその後の行動が自分を変えると思う経験だった。(ここの)

今日22日、24日の朝東
高生徒昇降口に制服が並び、
生徒の注目をあびた。中
も、新たに作られた女子用
スラックスの前には、足を
止める女子生徒が見られた。
女子用スラックスの導入は
企業の提案やスラックスを
はきたいという女子生徒が
多かったことにより実現し
た。

女子用スラックスの着用は、
来年4月を予定とし、暑
い日や寒い日など季節に応
じて制服を選択することが
可能になる。

また、24日にはジェンダー
レスの観点から、制服のデ
ザインに関するアンケート
が行われた。昇降口にはそ
の見本として、男子の現行
のデザイン、女子のスカ
ートのデザインそれぞれのス
ラックスがあり、アンケー
トの結果でデザインが決ま
る。(紫衣)